

「住民ニーズにもとづいた自治会の作り方」

2020.12.12.10:00～12:00

東市民活動センター

Tochigi
Youth
Supporters
Network*

NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク

特定非営利活動法人

とちぎユースサポーターズネットワーク

代表理事 岩井 俊宗

自己紹介

岩井 俊宗

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事

1982年 生まれ。栃木県宇都宮市出身(明保小、城山中、宇東高)

2005年 宇都宮大学国際学部(友松研究室、住民主導の開発)卒業後、
ボランティアコーディネーターとして
宇都宮市民活動サポートセンター入職。

NPO・ボランティア支援、個別SOSに従事。

2008年 とちぎユースサポーターズネットワークを設立。

若者の成長の機会創出と持続的に取り組む人材を輩出し若者による社会づくりの促進を目的に活動開始 NPO

2010年法人化。現在代表理事を務める。

現在38歳、妻(国際学部同級生)
小5の息子(11歳)、保育園娘(5歳)と4人暮らし

<外部組織役員等>

(2018年度～) NPO法人とちぎ協働デザインリーグ 理事

(2017年度～) 一般社団法人えんがお 理事

一般社団法人きつりずむ 監事

宇都宮創造都市研究センター 運営協議会委員

(2016年度～) 宇都宮コミュニティFMミヤラジ番組審議委員

(2012年度～) 認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 検定システム化委員会委員

(2006年～) 認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事

<行政・学校関連委員等>

(2020年度～) 栃木県デジタル戦略策定外部有識者会議 委員

(2019年度～) 宇都宮市ふるさと納税起業家支援事業 審査員

宇都宮大学地域デザイン科学部教育連携専門委員会 委員

文星芸術大学 非常勤職員

大学コンソーシアムとちぎ「学生&企業研究発表会」分野別審査員

(2016年度～) 宇都宮市空き家等対策実践連絡会議委員 副会長

とちぎブランド力向上会議委員

宇都宮市西小学校PTA 副会長

(2015年度～) 宇都宮市行政改革推進懇談会委員

(2014年度～) 宇都宮市起業創業支援相談員

(2013年度～) とちぎ協働アドバイザー

▼過去

(2017.3～2018.5)下野新聞「一冊啓上！」コラム執筆 (2016～2019) 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク理事 (2016年～2017) 栃木銀行ビジネスプランコンテストメンター (2015年～2019) 中央ろうきんNPO助成選定委員(2014年～2020) 一般社団法人とちぎニュービジネス協議会理事 (2014年年度) 栃木県社会貢献活動推進懇談会委員 (2004.3～2011.9)宇都宮市民活動サポートセンター ボランティアコーディネーター (2011.4～2011.9)宇都宮大学ボランティア支援室開設 ボランティアコーディネーター (2013年度)全国ボランティアコーディネーター研修集会 事務局長 (2012年度～2015年度)日光市高齢化集落地域づくりアドバイザー

本日お伝えしたいメッセージ

住民にニーズに基づいた自治会運営について

- ①“仲間(住民)がワクワクする未来の景色を提示する”(ビジョン)
※ワクワク=内発的欲求
- ②“我々(自治会)の存在理由は何か(問題背景・ニーズ)の解を自ら設定する”(組織使命/ミッション)
- ③(ミッションの実現のための)課題解決/価値創造のための事業が必要である。
- ④「言葉(会議・議論)より小さな実験、小さな成功」
=実現に向けた景色をつくる

提案実施団体概要

Tochigi
Youth
Supporters
Network*

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

Mission

“若者の力を活かして、
地域活性化/課題解決を
加速する”

組織概要

特定非営利活動法人 とちぎユースサポーターズネットワーク

【設立】(NPO法人化)2010年4月 (任意団体) 2008年7月 【資本金】 0円 【最近決算報告】 2700万円(2020.3月)

【住所】宇都宮市西原1-3-4 【電話】028-612-1575 【URL】 <http://www.tochigi-ysn.net>

【FAX】028-612-1585

【会員】139名 2019.4現在

【職員】専従職員3名 非常勤職員2名

【理事】岩井 俊宗 代表理事

塚本 竜也 副代表理事 / NPO法人トチギ環境未来基地 理事長

古河 大輔 事務局長

中野 謙作 一般社団法人栃木県若年者支援機構 理事長

金井 光一 NPO法人チャレンジ・コミュニティ 代表理事 / 有限会社コパン 代表取締役

大塚 雅斗 株式会社キッズコーポレーション 代表取締役 / 一般社団法人とちぎニュービジネス協議会 前会長

小久保行雄 有限会社ドンカメ 代表取締役

清嶋 磨利夫 株式会社キップルネットワーク 代表取締役

野崎 千晶 株式会社ワークエントリー 宇都宮事業所 所長

【監事】安藤 正知 NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事/事務局長 / 宇都宮市まちづくりセンター センター長 5

【ミッション】 若者の力を活かして、地域の活性化/課題解決を加速する。
【事業】 地域と若者のコーディネート業務(人材育成、事業支援、組織間コーディネート)

【実績/31年度】 機会提供者 大学生他20代～30代の若者 5,571人/年 (31年度)
会員(当会を支える方・組織) 139人・社/年 (〃)
協力者(事業実施に協力してくれている方) 426人/年 (〃)
活動提供時間(機会提供者×時間) 19,977時間/年 (〃)

【設立から】 提供者数累計 延28,620人 協力者累計 延3,081人 活動時間累計 102,141時間

【事業実績等】

宇都宮市起業家養成事業(宇都宮市産業政策課) /H27、28、29、30年度

那須烏山ローカルベンチャー育成事業(那須烏山市まちづくり課) /H28、29、30年度

宇都宮市民シティプロモーション支援事業(宇都宮市広報広聴課) /H28、29年度

栃木県地域づくり担い手育成事業(栃木県地域振興課) /H28、29、30年度

UJIターン支援事業(栃木県地域振興課) /H28、29、30年度

宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」(宇都宮大学) / H29、30年度、

課題発見・解決型インターンシップ(宇都宮大学キャリア開発・就職支援課) /H25、26、27、28、29、30年度～

ミライ×キャンパス(コカ・コーラジャパンボトラーズ) / H29、30年度

【助成支援】

住友商事株式会社、日本たばこ産業株式会社、

ラッシュジャパン株式会社、日本フィランソロピー協会

【受賞/視察】



平成29年度
「第1回創業機運醸成賞」
経済産業省中小企業庁より
全国22選に選出



平成30年度 第1回
「とちぎ次世代の力大賞奨励賞」
株式会社下野新聞社より

令和元年度
「社会貢献活動賞」
栃木県経済同友会より

令和2年度
北村地方創生担当大臣視察

“お寺 × NPO” お寺がつくったコワーキングスペース *aret*

▼光琳寺井上さんの背景

- ・お寺の地域の拠所としての原点回帰。地域(住民、檀家)への深い安心の提供したい。
- ・お寺、また住職として人の生き死に、また生き方に関わる故、よりよく生きて欲しい願いとともに、よりよく生きていける社会環境を作り出したい。
- ・さらに、地域の未来を光照らす創造を生み出す機能を持った新しいお寺の機能・役割の再定義(ソーシャルイノベーションの孵化機能)したい
- ・檀家を始めとして、光琳寺のある西、西原地区が高齢者も多いことから、高齢者の活躍・役割を支えられる役割を担いたい
- ・井上さん自身の持つ、マインドフルネス他の人材育成プログラムや提供先となる大手企業人材、またキー局メディアとの人的ネットワークを地元を活かしたい。

▼とちぎユースサポーターズネットワークの背景

- ・挑戦する若者たちを育む機能をプログラムから日常的関わりができるようにしたい。日常的に新たな挑戦者が出会い、支えられる機能をプログラムではなく、エリア・日常として展開したい。
- ・育んだ卒業生(起業家等)の現場や拠点/空間をつなぐ機能が弱い現状から、我々も地域に関わり住民の声、理解と期待を受けながら、卒業生に現場を提供・コーディネートしていきたい。(よそ者チャレンジャーと住民が関わり合う地域の玄関的機能、地域に人材定着機能)
- ・若者による地域活性化、課題解決をミッションにしているが、事業成果が見えづらく、我々が実際に地域に関わることで、地域の変革事例をつくりあげたい。
- ・エリアに来ることで、挑戦意欲やいい出会いがあり、このエリアで暮らしたい、暮らす選択が起きるエリアの形成をしたい。



- コンセプト
1. 人との関わり、関係性が生まれ、育まれる。その関係性により、安心や希望が生まれる新しさが育つ空間
 2. これからの未来と社会に対して、命をより輝かせる使い方ができるような人を育みたい。
 3. 人づくり、まちづくりの拠点



aret 2018

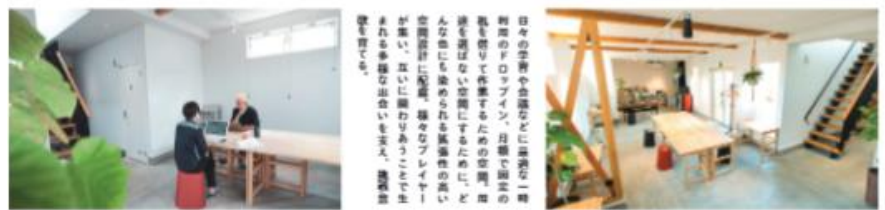
とちぎユースサポーターズネットワークの「チャレンジ」が実現
 するために、2018年、高松市を拠点として「aret」を創設し、高松
 市(井上さん)の中心地を軸とした社会を考えた拠点の創設を
 目指し、「aret」として思いがけぬ形で生まれた地域の拠点「コワーキ
 ングスペース」を開設。シェアオフィス、イベントスペースとして運営でき
 る。

aret × NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク

よりよい未来づくりに挑む挑戦者と新たな力に期待する住民や組織が互なりあう地域の実現であ
 り、そのコーディネートとしての役割を担う。若者の挑戦をより一層展開するための後押し。
 aret 母体が、挑戦者が集い、必要とされ、支え合うエリアへ。

コワーキングスペース・シェアオフィス

- 挑戦者が集い、高め合う場 -



日々の生活や仕事などに必要な一
 切のものを揃えておくための空間。用
 意を怠らない空間にするために、ど
 んな面にも求められる気遣いの高い
 空間設計(照明、機材やフレキシバ
 ルな家具)を、互いに関わりあうこと
 ができる多様な出会いを支え、挑戦者
 を支える。

イベントスペース

- “違い”が反応し創造が生まれ支える場 -

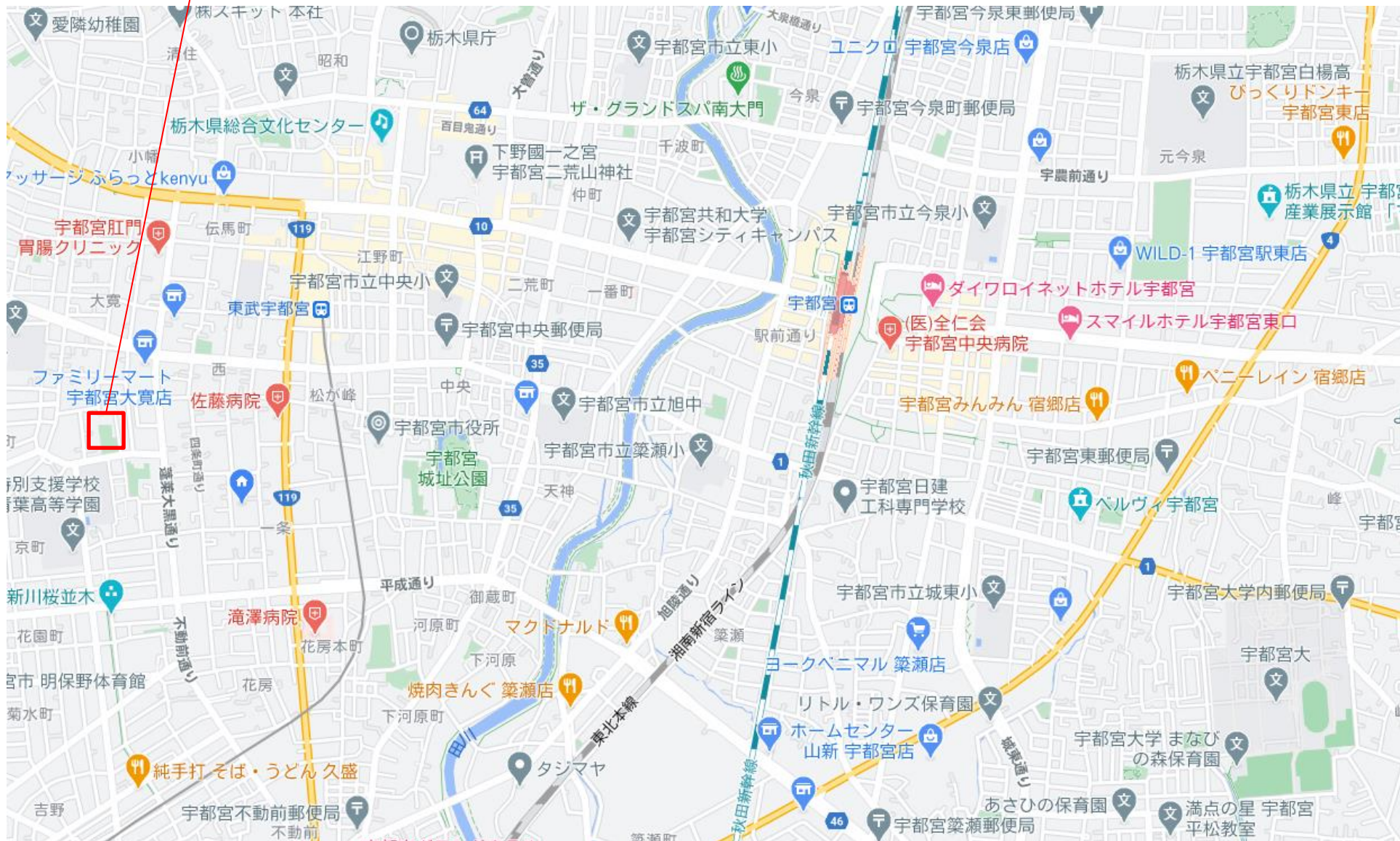


イベントスペースを通じて人と人との
 関係性を構築し、新たな価値を創
 造する。また、イベントスペースに
 関する情報は、自治体や民間の
 関係者へ共有し、協力を得る。こ
 のように、地域とつながり、支え
 合う空間を創出することで、地域
 の活性化や課題解決に貢献する。
 地域とつながり、支え合う空間を
 創出することで、地域の活性化や
 課題解決に貢献する。

月一映画会

読書会

aret



2010年。

＼始まりの問題意識／

- ①進行が止まらない人口減少
- ②超少子高齢化による人口バランスの偏り
- ③ひっ迫する国家財政

⇒誰も経験したことのない社会

⇒不透明かつ不確実な社会

- ④加えて、多様な社会課題が山積

⇒ボランティアによる課題解決の限界

⇒持続的に課題解決に立ち向かう人材とアプローチの
確立

従来の社会システムや価値観の転換のために、

- ①新しいアプローチ(解決策や価値観)の創出に挑む人材を育むこと
- ②支え合い切磋琢磨するネットワークが広がること
- ③彼らが地域社会を変えていく実践を可視化していくこと

これらの仕掛けを生み出し、挑戦者のベースキャンプとなり、加速させていくことが必要。

これまでご支援頂いた企業様(2012~2015)



Kids Corporation
株式会社キッズコーポレーション



栃木銀行

こらぼワーク

仲間と一緒に、仕事をつくる



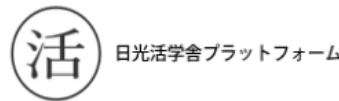
2015年度 JT NPO助成事業



「5」のつく日。JCBで復興支援



株式会社ユーキャン



KAERU Adventure 株式会社
一般社団法人CHEEK UP
株式会社サムライトサムシング
株式会社オーリアル

有限会社コーチ精機
特定非営利活動法人 栃木DARC
アイ・こころのクリニック
有限会社国分寺産業

株式会社五光宇都宮店
ハッピーメイカー
はやき風株式会社
一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター

これまでご支援頂いた企業様(2016~2019)

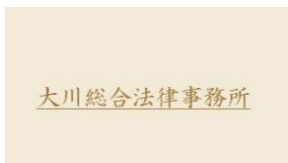


栃木銀行



こらぼワーク

仲間と一緒に、仕事をつくる



大川総合法律事務所

株式会社 ル・リオン

Design Office le Lion



税理士法人
浜村
会計



CRESKOM



GOKO
human link corporation



宇都宮餃子



ZEAD
UBIQUITOUS INTERNET SOLUTION PROVIDER



Somelight
Something



KOKUBUNJI SANGYO

~未来のため循環型社会のために~



地域編集室

箕田理香事務所



はやき風
hayaki-kaze



Ko-chi



2ND
BOOM
APP PLANNING AND DEVELOPMENT
www.2nd-boom.com



一般社団法人

えんがお



RTC

Electronics for
Human & Machine

医療法人

創生会真岡西部クリニック

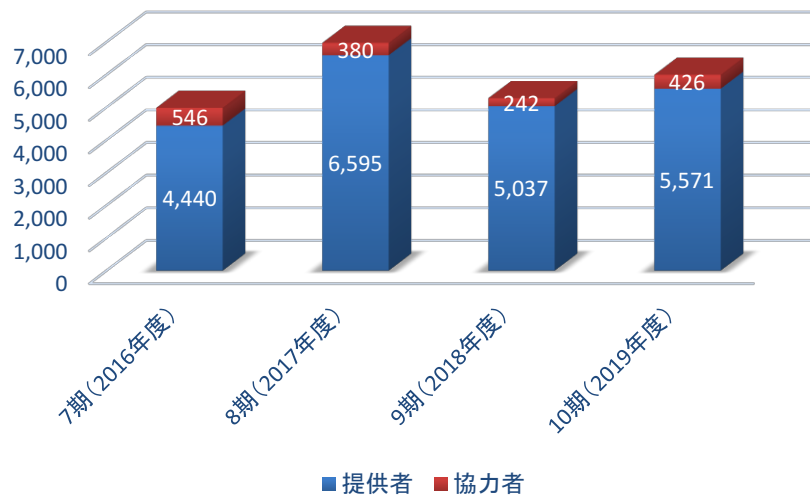
行政書士久我法務事務所
Dr.COOGA OFFICE

エルライズ株式会社
アイ・こころのクリニック
FAAVO宇都宮

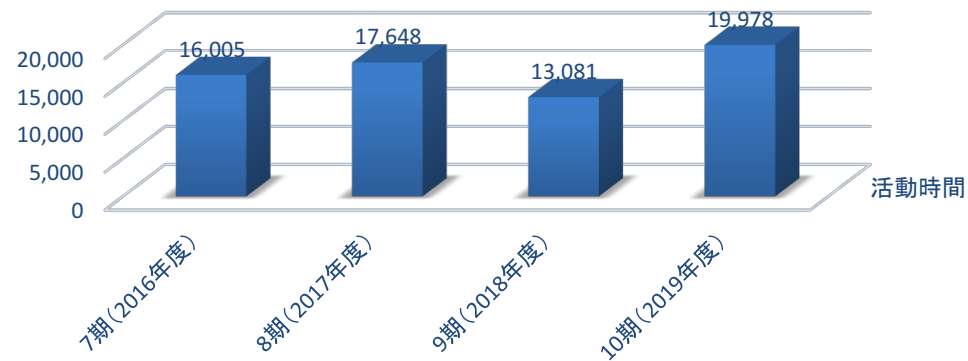
株式会社ジェネックス 菜の花どうぶつ病院
株式会社ドクターリフォーム・サンセイ

直近4か年の推移

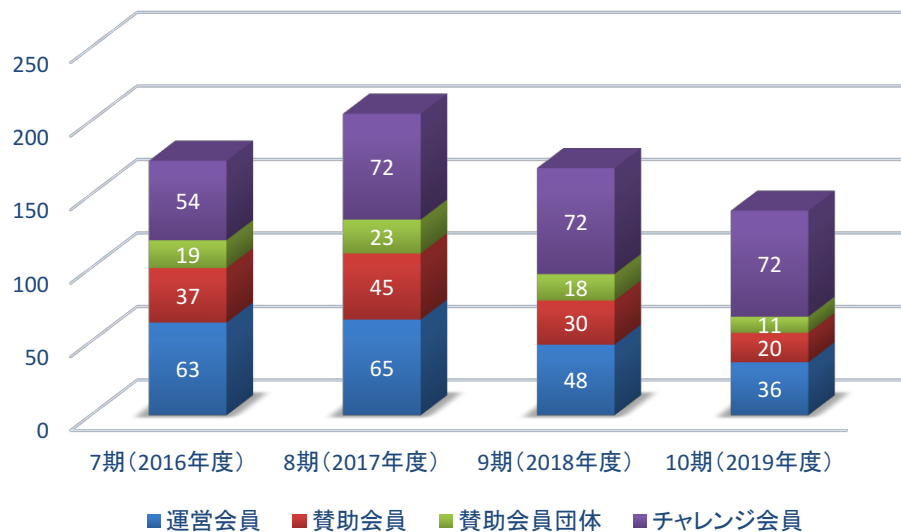
提供者数+協力者



活動時間 (提供者×活動)



会員数



事業スキーム(2010~2018)

ミッションの実現

“若者の力を活かして、地域活性化/課題解決を加速する”

若者の力に期待し、必要としている企業、NPO

3rd プロジェクトレポート

⇒会員(120名)相互のメンタリング、ブラッシュアップ

会費寄付収入

事業)会員限定交流会「YOUTH TIME」等

2nd インキュベーションプログラム

⇒“地域×若者”コーディネート、メンタリング

事業収入
協賛金収入

事業 実践型インターンシップ
「GENBA CHALLENGE」



伴走型アイデアプランコンテスト
「iDEA→NEXT」等



1st 動機づけ(マインドセット)プログラム

⇒プログラム開発・提供

委託事業収入
助成金収入



SOZO

“したい”が“できる”に

社会貢献活動プログラム群

“起業・創業”プログラム群

“働く・就職”プログラム群

“UJIターン”プログラム群

社会貢献したい若者、成長意欲の高い若者

ステークホルダー(事業連携/賛助企業)

会員 運営会員、賛助会員、チャレンジ会員
計205名 学生、社会人、主婦、会社経営者、
NPO代表者、大学教授、メディア・記者、行政職員

大学 宇都宮大学、白鷗大学、国際医療福祉大学、
文星芸術大学、作新学院大学、帝京大学、
大学コンソーシアムとちぎ

経済団体 とちぎニュービジネス協議会、宇都宮ベンチャーズ、
栃木県経済同友会、他

メディア 下野新聞 読売新聞 朝日新聞 産経新聞
毎日新聞 東京新聞 FM栃木 栃木放送 とちぎテレビ、他

行政 栃木県(地域振興課、県民文化課、観光交流課、
医事厚生課、経営支援課、)、宇都宮市(産業政策課、
みんなでまちづくり課、)、他

企業 キッズコーポレーション、ジード、グリーンデイズ、
CDPジャパン、ファームアンドファームカンパニー、
国分寺産業、ドンカメ、パンアキモト、夢創造、
新朝プレス、レーベンデザイン、クルール・プロジェ、
とちぎ労働福祉事業団、他 多数、

NPO ETIC(東京)、だいじょうぶ、トチギ環境未来基地、
ふくふく亭、とちぎVネット、

公益法人 社会福祉協議会(県、宇都宮市、日光市、
鹿沼、市貝)、とちぎYMCA、正恵会、栃木県青年会館、
他多数

中間支援センター まちぴあ(宇都宮) ふうらっと(鹿沼)、
くらら(栃木)、コラボレー(真岡)、

Tochigi
Youth
Supporters
Network*

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

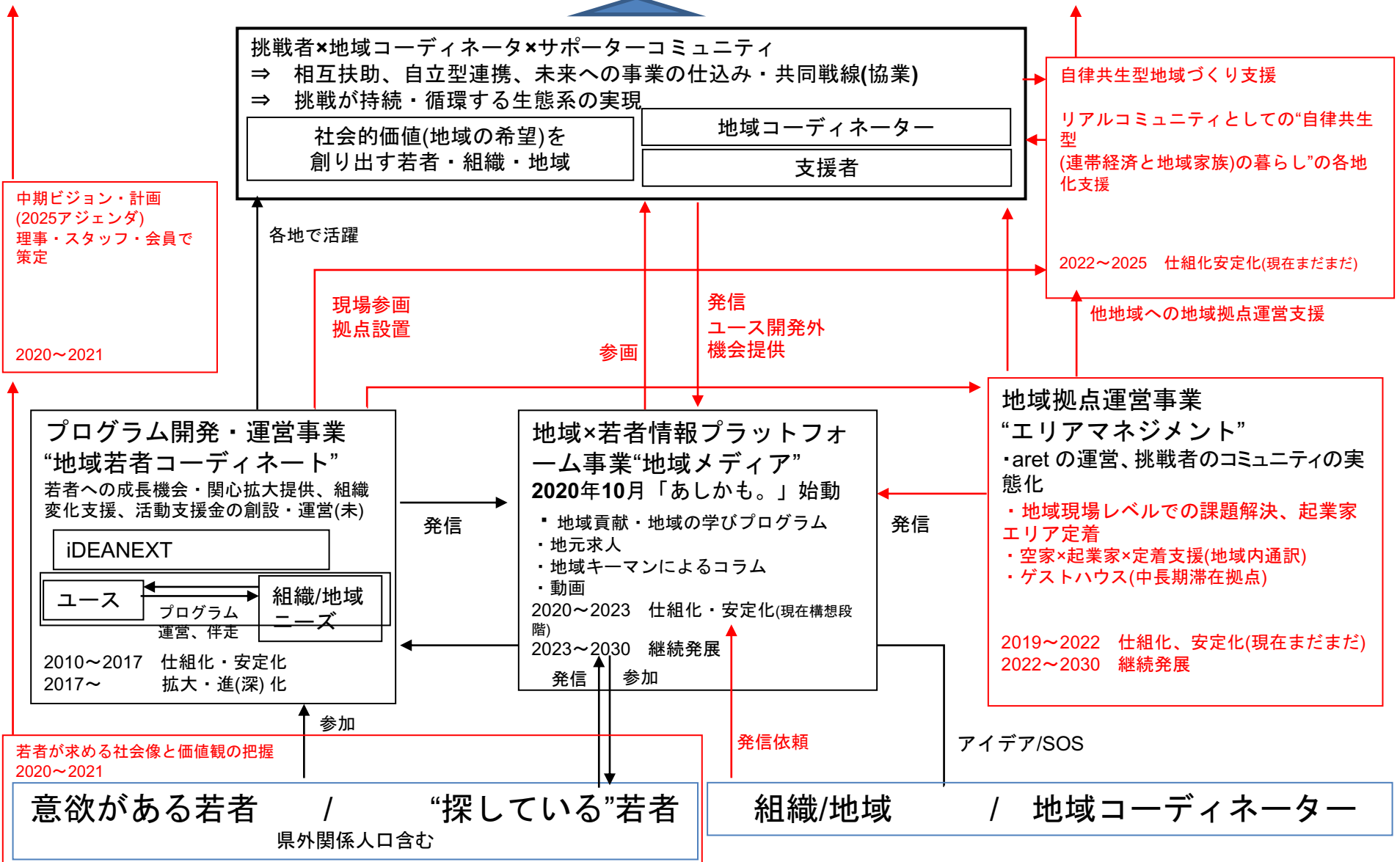
事業スキーム(2019～)

アフターコロナ社会におけるユースの中長期事業スキームイメージ

赤字：新規

黒字：既存

ミッション：「若者の力を活かして、地域の課題解決/活性化を加速する」の実現



プログラム開発・運営実績(一部)

宇大 未来塾 UDAI MIRAIJUKU

次の自分。次の栃木。
延長線上にない未来を。

3CA材とは
「Challenge」=主体的に挑戦し、「Change」=社会的責任を自覚して自らを変え、さらに「Contribution」=広く社会に貢献する。人材「志」を創出する体制の中で、各自が求め、挑戦によって知能、知識・社会に貢献していく。

トップリーダーによる
「とちぎ志士プログラム」
[2019年]

2017年10月11日より毎月第4水曜日 19:00~21:00 宇都宮大学 UU プラザにて
対象者：20代~30代の社会人で、自分の未来、自分の志を伸ばそうとする意欲のある者

毎月のトップリーダーが講話や相談役を担い、最新の活動や取り組み、最新の事例や活動を通して、仲間とのネットワークが広がります。

発展を支える新しいコミュニティのなかで、チームでプロジェクト、社会を動かす分析力、課題の思考力と応用力を磨きます。

「志者」からのメッセージ
不遇や不遇感から未来に向けて挑戦し続ける「Challenge」、自らを動かす中「Change」、自身の責任とより地域社会の発展に貢献する「Contribution」、そんな3C精神を軸とした志者「とちぎ志士」と、その人それぞれのネットワークを築いていっています。 編集 北山 幸徳 宇都宮大学

宇大未来塾を支えるトップリーダー












宇都宮大学 × 当会
宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」
(H29年度~)

県内の産業界・地域活動界のリーダーを育むことと創造的ネットワーク形成することを目指しトップリーダーと関わり合う全17回プログラムを実施

今ある地域の
その先へ

リアルな課題に取り組み、その先を目指せ
地域づくりチャレンジ3days
Make our Local for the future. 3days

「この期をもっと長くするにはどうしたらいいだろう? そんな思いを持つあなたへ、地域づくりの課題を題材に、様々なスキルを学びながら自分の思いを形にし、大きな一歩を踏み出せる3日間へ、飛び込んでみませんか。」

11.12 sun 13:00-16:30
栃木県庁 本館9F 会議室3

参加無料
対象：どなたでも
申込：10月27日
申込締切：11.11 申込

主催：栃木県 共催：宇都宮大学 協賛：宇都宮市 後援：宇都宮市産業政策課

栃木県地域振興課 × 当会
「とちぎ地域づくり担い手育成事業」
(H28年度~)

地域づくり活動の新たな担い手を掘り起こし、育成するための事例発表、フィールドワーク、活動体験、スキルアップ講座の開催

産学官連携講座 大学コンソーシアムとちぎオリジナル科目 平成29年度宇都宮大学基礎キャリア教育科目
アントレプレナーシップ

今、企業でも行政でも必要とされる起業家精神
起業の実際と理論
アントレプレナーシップをビジネスの最前線から学ぶ
後期授業 毎週月曜 9~10限目 16:10~17:40 峰キャンパスラーニング・commons2
自分の可能性を試してみよう!

あんとれ力
チャレンジ精神と行動力のある人材になろう!

ビジネス基礎力
起業に必要な知識と能力を磨こう!

起業家精神

事例に学ぶ
経営者や起業家から生き様を学ぼう!

自ら考える力
時代変化に対応できる人材を目指そう!

1. 経営・起業支援のプロフェッショナルが講師
2. 学生に、わかりやすさ・学びの活かしやすさを重視したカリキュラム
3. 対話、プレゼン等、考え伝えていく実践も充実

OBの顔も聞けます!

先輩経営者に学ぶ
多様な経営者やビジネスモデルに触れ、ビジネスのコンセプト、仕組み、取り組み、自らのビジネスイメージを深めていきます。

ビジネス基礎
会社・事業・経営とは何か、コンセプトづくり、マーケティング・ターゲット設定、集客・取引先開拓の基礎、起業家としてのプレゼンテーション、マネジメント・組織論を学びます。

ビジネスアイデアづくり演習
自身の得意分野や関心分野、アイデアの具体化に向けて、自身の得意も取り込みつつ、実際に事業が成り立つべく、実践していく力を身に付けていきます。

開催日	内容	講師	開催日	内容	講師
2017/10/2	オープニングスピーチ レクチャードラマの最新情報と今後の展望のNASA	本廣先生 秋立 高志 氏	12/4	アイデアブッシュアップ チームでビジネスプランを作る	高井 安秀 氏
10/16	講話 会社、事業、起業、成功と挫折、起業までのプロセス	高井 安秀 氏	12/11	ビジネスモデル研究1 企業へ入社する起業家 アイデアブッシュアップ	西村 修 氏
10/23	ビジネス基礎1 ターゲット設定、マーケティング ビジネスアイデアづくり	水沼 謙吾 氏	12/18	ビジネスモデル研究2 海外へ入社する起業家	藤原 隆行 氏
10/30	ビジネス基礎2 ビジネスモデル、財務計画、資金調達	立花 誠 氏	12/25	アイデアブッシュアップ 活動の発展者(センター)によるアドバイス	高井 安秀 氏
11/6	先輩に聞く 起業家としての理由 宇都宮大学工学部機械工学科 大塚 直幸 氏	藤原 隆行 氏	2018/1/15	アイデアブッシュアップ 活動の発展者(センター)によるアドバイス	高井 安秀 氏
11/13	ビジネスアイデアづくり ターゲットとニーズ	高井 安秀 氏	1/22	ビジネスプラン発表 活動の発展者(センター)によるアドバイス	高井 安秀 氏
11/20	ビジネス基礎3 プレゼンテーション、営業の仕方	高井 安秀 氏	1/29	卒業発表発表 記念式	
11/27	ビジネスアイデア発表会				

詳細はウェブサイトをチェック! <http://sozo.tochigi-ysn.net/event/ep2017>



宇都宮市産業政策課 × 当会
宇都宮大学キャリア教育就職支援センター
「起業の実際と理論」(H27年度~)



実践型インターンシップ 「GENBA CHALLENGE」

まちづくりや社会課題に取り組む組織が抱える“課題”の解決や“次の一手を創る”現場をインターンシップのフィールドにした、若者の「挑戦と成長」の場であり、受入組織の価値創造にも貢献するインターンシッププログラム



若者による社会をよくするスタートアッププログラム 「IDEA→NEXT」

人と地域が元気になる。こんな風だったら面白いをカタチにする。そんな社会に新しい価値を提供する若者を輩出し、地域の困りごとの解決や社会をよくする活動を活性化させる、若者が未来へ躍動するスタートアッププログラムです。また若者のアイデアやアクションを見える化し、企業や地域で活動する人々と若者が繋がる場です。



「はじまりのローカル コンパス」

あなたにローカルを10%プラス 地方初心者必見！地方（栃木）との新しい関わり方を発信中！とちぎの魅力的な人や地域プロジェクトに週末のみ関わりながら、自分らしいスタイルを見つけてみませんか？



FukuFuku とちぎ手仕事プロジェクトFukuFuku

「作る」「売る」「使う（買う）」という行為を通して未来への影響を考え、持続可能な社会に貢献するため、地域、人・社会、環境に配慮した商品をお届けします。



会員限定交流会 「YOUTH TIME」

よき未来を自ら創り出そうとする150名を超える当会会員が集い、それぞれの事業加速と課題解決に向け、次の一手を生み出す交流会。



“したい”が“できる”に 「SOZO」

若者がとちぎを舞台に未来を想像しながら創造するチャレンジの場です。新しい力、仕組みを必要としている地域の課題に対して、挑戦する若者を育むプログラム開発運営を行っています。



受賞対象名 集会所【とみくら みんなのリビング（元タバコ屋・駄菓子屋の地域拠点へのコンバージョン）】
 事業主体名 宇都宮市東峰西自治会
 分類 公共の建築・空間
 受賞企業 宇都宮空き家会議（栃木県）
 宇都宮市東峰西自治会（栃木県）
 受賞番号 19G141114
 受賞概要 2019年度グッドデザイン賞受賞概要

受賞対象の概要 ※掲載している情報は、受賞当時の情報のため、現在は異なる場合があります。

概要 宇都宮市にある元たばこ屋・駄菓子屋のコンバージョンによる地域拠点。宇都宮空き家会議の下で、市、自治会、大学、NPO、工務店が連携し、空き家改修をセルフビルドした。住宅地が増加する高齢世帯と、学生アパートに住む若者という、これまで交流が無かった住民の間に「みんなのリビング」としての居場所と、新たなコミュニティを創出した。

デザインのポイント
 1. 作りながら/使いながらできる居場所：空き家を改修しながら使い続けることで、人が関わる場所を生み出した
 2. 誰でも立ち寄れる緑地空間：道を歩き来する人が気軽に立ち寄る、庇、ベンチ、窓口カウンターを再整備した
 3. 多様な活動を支える土間空間：内壁を撤去し土間を拡張し、地域の住民や学生が様々な活動ができる空間とした

プロデューサー 宇都宮市東峰西自治会 荻井光、伊藤武、関澤美智子

ディレクター 宇都宮空き家会議 宇都宮大学地域デザイン科学部 石井大一郎、安森亮雄/NPO法人とちぎユースポーターズネットワーク 岩井俊宗/株式会社ピースノート 河村公威、茂串充雄/宇都宮市 伊澤徹、福田龍司

デザイナー 宇都宮大学安森亮雄研究室 安森亮雄、塚本琢也、松本大知+株式会社ピースノート 茂串充雄



GOOD DESIGN AWARD 2019

下記のデザインは、2019年度
グッドデザイン賞を受賞しました

集会所
とみくら みんなのリビング(元タバコ屋・駄菓子屋の地域拠点へのコンバージョン)

受託業者
宇都宮空き家会議 会長 安森亮雄
宇都宮市東峰西自治会 会長 荻井光

プロデューサー
宇都宮市東峰西自治会 荻井光、伊藤武、関澤美智子

ディレクター
宇都宮空き家会議 宇都宮大学地域デザイン科学部 石井大一郎、安森亮雄
NPO法人とちぎユースポーターズネットワーク 岩井俊宗
株式会社ピースノート 河村公威、茂串充雄
宇都宮市 伊澤徹、福田龍司

デザイナー
宇都宮大学安森亮雄研究室 安森亮雄、塚本琢也、松本大知
株式会社ピースノート 茂串充雄

公益財団法人日本デザイン振興会 会長 川上元

グッドデザイン賞審査委員会 委員長 柴田文

2019年10月31日 公益財団法人日本デザイン振興会 No.19G141114

実施プログラム(抜粋)

♡ 募集終了 2020年 1月 29日
~ 2月 25日

♡ アイデア発案者、実践者募集 /
社会をよくするアイデアブラ
ッシュアップミーティング

社会をよくするアイ
デアブラッシュアップミー
ティング

社会をよくするアイデアを持った仲間
と出会う 近年、地域課題解決型
事業の創業を志す方々が増えてきて
いる [...]

→ くわしく

♡ 募集終了 2020年 1月 19日
~ 3月 1日

地域づくり担い手支援プログラム
事例に学ぶ! 地域づくりスキル
アップ講座

地域づくり
スキルアップ講座

地域づくり実践者のみなさまへ 地域
づくり活動に必要な、たくさんのご
事。人の巻き込み方や地域の魅力の
打 [...]

→ くわしく

♡ 募集終了 2020年 1月 12日

参加者募集中
地域で暮らすを考える 地域
ワーク@那須烏山

社会の課題に出会う 地方を体感する
SEED (種)

日常を取り戻す 私たちが暮らしてい
る栃木県は、自然災害が比較的小
さい県だと言われていましたが、10月
 [...]

→ くわしく

♡ 募集終了 2019年 11月 2日

リアルな課題に取り組み、その先を目指せ!
地域づくりチャレンジ3days

地域づくり
チャレンジ
3days

「この街をもっと良くするには、ど
うしたらいいだろう?」そんな想
いを持つあなたへ向けた、実践型プ
ログラム [...]

→ くわしく

♡ 募集終了 2019年 10月 26日
~ 11月 4日

ワクワクするまちをつくらう
高校生・大学生のための地域
づくり体験フィールドワーク(1
0/26&11/4)

地域づくり体験
フィールドワーク

「働く」を知る SEED (種)
現場でスキルを磨く SPROUT (芽)

地域づくり活動体験 地域づくりに取
り組む現場に1日参加し、地域の課題
を見つけて解決のアイデアを探して
 [...]

→ くわしく

♡ 募集終了 2019年 10月 20日

街って、自分で面白くできるんだ!
学生x地域づくり 実践事例
発表会&活動体験

学生
x
地域づくり

社会の課題に出会う 地域課題の歩き方
SEED (種)

街って、自分で面白くできるんだ!
「まち(地域)づくり活動」ってワ
クワク、ドキドキがいっぱいだった
知 [...]

→ くわしく

♡ 募集終了 2019年 9月 20日

第1期 那須烏山市地域おこし
協力隊 成果報告会

社会の課題に出会う 「働く」を知る
起業やビジネスを学ぶ

2016年10月と11月に着任し、この
秋に3年間の任期を終える那須烏山市
地域おこし協力隊の第1期生3 [...]

→ くわしく

♡ 募集終了 2018年 12月 2日
~ 2019年 3月 2日

地域づくり担い手支援プログラム
事例に学ぶ! 地域づくりスキル
アップ講座

事例に学ぶ!
地域づくり
スキルアップ講座

事例に学ぼう! 地域づくり担い手支
援プログラム 地域づくり活動に必要
な、たくさんのご事。人の巻き込み
方 [...]

→ くわしく

♡ 募集終了 2018年 11月 17日
~ 12月 9日

宇都宮市・大谷で新しいライフスタイルを 発見しま
う!
宇都宮StartupCamp 宇都宮
のナチュラルな暮らしと仕事と仲
間に会おう4日間

「働く」を知る 起業やビジネスを学ぶ
SEED (種)

Welcome to UTSUNOMIYA! 大谷で
はじめるナチュラルライフ 建材とし
て有名な「大谷 [...]

→ くわしく

< 当会独自の実績、強みとして >

チームとしてこれまで10年、課題解決型人材の育成、現場展開コーディネート、創業支援、創業後支援のプログラム開発、個別メンタリング、を当会ネットワークを活用し実施。

提供者数累計 延18,012人、協力者累計2,413人

県内の大学、高校等の教育機関、うつのみや起業家支援ネットワークをはじめとした創業支援機関、当会会員・支援起業、県内経済団体等との強いネットワーク。

県内大学、高校、中学校等での講義、課題解決型学習を実施

(2018年度29件、3004名：宇都宮大学、文星芸術大学、共和大学、作新学院大学、宇都宮北高校、鹿沼東高校、雀宮中学校、阿久津中学校、那須中学校、他、多数)

経済産業省中小企業庁「平成29年度 第1回創業機運醸成賞」全国22選、株式会社下野新聞社「平成30年度 第1回とちぎ次世代の力大賞奨励賞」、令和元年度「グッドデザイン賞」、令和2年「栃木県経済同友会 社会貢献活動賞」に選出の他、令和2年度は北村地方創生担当大臣に視察頂くなど、外部評価を有する

我々が実現したい景色

“新たな「解」となる希望・価値観を創り出す”
社会的挑戦が持続・循環する生態系を創る。

新たな希望や価値観の創出によって、
人々の行動の変容を促し、社会をよりよいもの
にしていく。

(例えば、地方で暮らすってかっこいい、面白いなど)

自治会とは何か。
(確認)

①「自治会」の定義

自治会...「住みよいまち」を実現するために、そこに住む人々が協働で地域内の様々な課題解決に取り組むとともに、親睦を図りながらまちづくりを進める団体

宇都宮市には、約800の単位自治会。
39の地区ごとに連合自治会。

約14万8千世帯、65.8パーセントが自治会に加入(宇都宮市HPより、平成31年4月現在)。

平成19年8月7日の東京簡易裁判所判決(平成18年(ハ)第20200号)でも「町内会は、自治会とも言われ、一定地域に居住する住民等を会員として、会員相互の親睦を図り、会員福祉の増進に努力し、関係官公署各種団体との協力推進等を行うことを目的として設立された任意の団体」

自治会の歴史 (ブリタニカ国際大百科事典より)。

- ・起源は、古く律令時代の里制度, あるいは江戸時代の五人組制度に求めることができる。
- ・もともとは単なる隣保組織にすぎなかったが, 第2次世界大戦参戦直前の 1940年, 内務省訓令により区域内全戸の加入が義務づけられ, 行政機構の下部組織として制度化。
- ・戦後の 47年5月(政令 15号)によって廃止され, その後 52年の政令失効とともに再び各地で復活している

現在、自治会が抱える問題

自治会の加入率＝78.8%

※「第51回市政に関する世論調査の結果(N=406, H30)」

※世論調査N=406のため①の自治会加入率の実態と違いがある

加入している理由(複数回答)

- ・「昔から入っている」 = 47.5%
- ・「自ら入った」 = 25.6%

上記の他、自治会長や班長、近所からの勧め、不動産業者等からの照会など外部からのすすめがきっかけとなっている。

未加入率＝21.2%

加入していない理由(複数回答)

- ・「マンション・アパート等の集合住宅である」 = 70%
- ・「加入を進められていない」 = 32.1%
- ・「役員や当番が負担」 = 19%
- ・「近所づき合いがわずらわしい」 = 15.5%

②現在、自治会が抱える問題

「自治会は今後どのようなになればよいと思うか」

現状維持＝26.8%

- ・自治会の活動を見直し(削減し)・可能な範囲での活動＝26.1%
- ・自治会の運営(会費)の見直し・加入しやすい組織にする＝19.5%

行政からの期待

② 地域主体のまちづくりの促進

■ 施策目標

地域住民が、コミュニティを大切にしながら、地域の特性に合わせ一体的にまちづくり活動に取り組む環境が整っています。

■ 施策指標

産出	自治会加入世帯数			
	現状値 (H29.4)	148,389 世帯	目標値 (H34)	149,000 世帯
成果	地域まちづくり計画推進地区数			
	現状値 (H29.4)	26 地区	目標値 (H34)	39 地区

(1) 日常生活の安全安心を支えるきずなづくりの推進（小さなコミュニティの活性化）

- ・自治会活性化の促進
- ・地域活動拠点の機能充実

(2) 地域が一体となったまちづくりの推進（大きなコミュニティの活性化）

- ・特色ある地域づくり活動の促進
- ・地域コミュニティの活性化促進

第6次宇都宮市総合計画(平成30年3月)

令和4年までに、自治加入世帯を現在の148,389世帯から**149,000世帯**へ

自治??

「自分や自分たちに関することを
自らの責任において処理すること。」

(デジタル大辞泉、小学館)

三条町南部自治会が 相談カフェ



【宇都宮市中央区の三条町南部自治会(青森県末自治会連の所属)は、自治会員が生活の中で困っているところを聞き取り、「なんでも相談カフェ」を毎月1回、毎月1回開催中。初回は、自治会の加入率低下や地域の交流が薄れる中、距離を縮め、相談カフェをつくり出すことで、自治会の新しい共助の仕組みをつくりだす。

三条町南部自治会は、市が本年開始している「自治会加入促進・活性化事業」の一環として、市内の自治会の加入率低下や地域の交流が薄れる中、距離を縮め、相談カフェをつくり出すことで、自治会の新しい共助の仕組みをつくりだす。

家の片付け、健康の悩み…

困りごと、地域で解決

宇都宮

高齢者率の高い自治会

- ⇒ 高齢一人暮らし、親族がいない住民
- ⇒ 担い手少ない

若者×地域づくりを支えるNPOと連携し、大学(帝京大学地域経済学科)の乗川ゼミに参画頂き、地域住民の生活課題を解決に向けた活動

- ⇒ 新たな支え合い(広域での共助)

ポイント

自治会長の“必要だ”“やってみないとわからない”若者の声を真摯に受け止めてくれる。こちらもアイデアから相談しやすい。

毎年、事業の必要性を問い直し、必要性が見えないものは辞める。

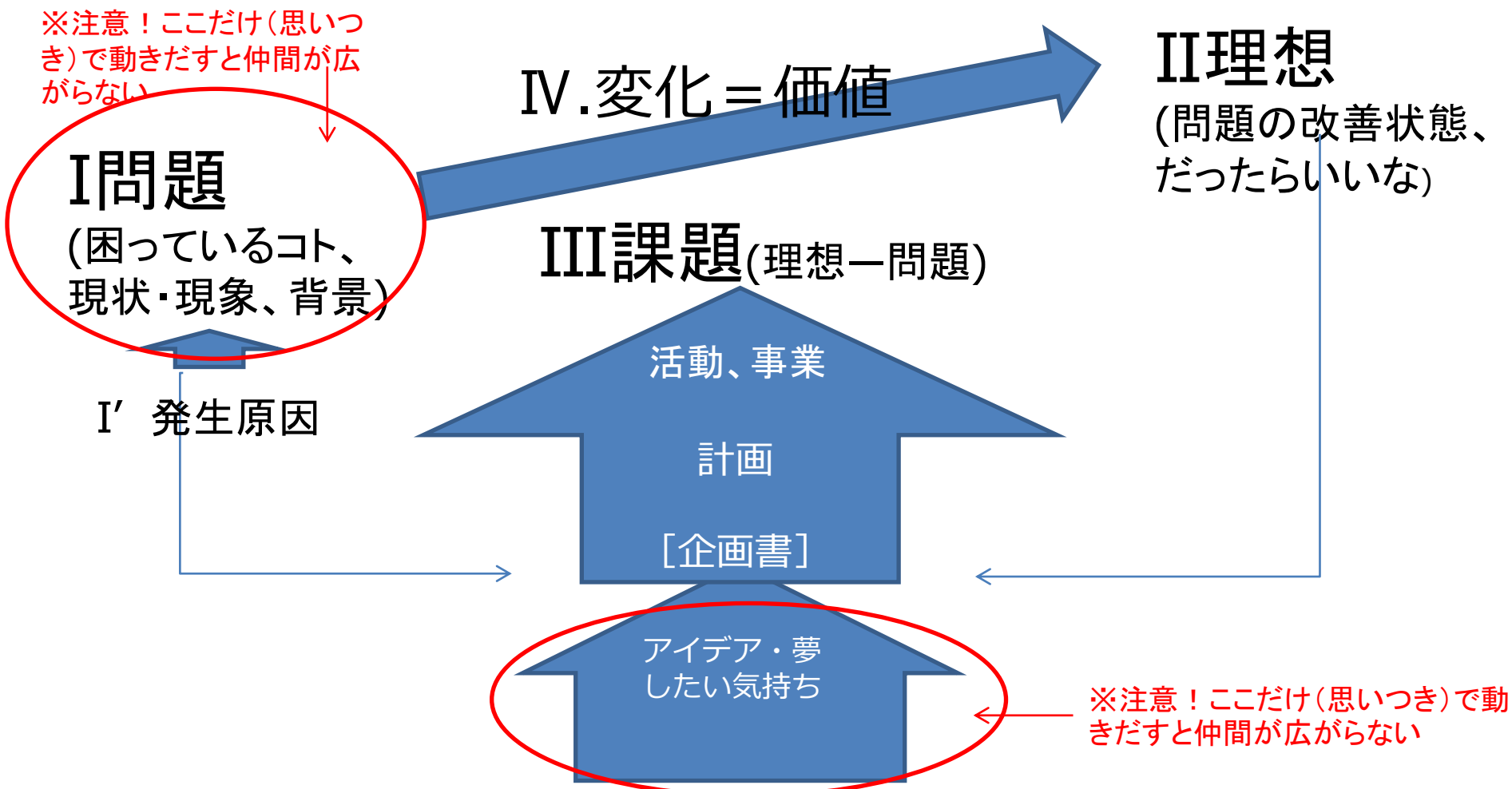
- ⇒ 事業点検(誰に、何のために実施しているのか、必要としている人がいるかを点検)
- ⇒ 役員が話し合い、決断する。

地域経済の学生も協力。朝から10代の女性らが訪れ、「足が重く運動場が分らない」といった相談のほか、スマートフォンでの検索を学生から教わった。また、買い物用の高齢者から「万歩計の電池交換がわからない」といった相談もあつた。この日の相談を機に、自治会では毎月、市民大生と一緒に、市の関係者とのサポートを進行する。自治会長の「今も共助。その自治会が果たすべき役割は大きい」といえる。市内のほかの地域にも取り組みが広がりつつある。自治会員の負担を軽減する仕組みが広がっている。

2020.11.23(月)
下野新聞

地域づくり(課題解決)を整理すると

※地域づくり…自らの意志と力で地域のHAPPYをつくりだす活動



アイデアは、理想と問題のギャップ(差)である課題を埋めるものであり、行動の種。

地域づくり(活動)の流れ

- ① 問題発見(情報接触、当事者接触、疑問・関心、体験) →
- ② 問題認識(実態確認、問題調査)
- ③ 問題分析・要因把握 →
- ④ 理想の設定 →
- ⑤ 要因^③と理想^④をとらえた課題の設定 →
- ⑥ **課題^⑤改善案策定**(企画書) →
- ⑦ 提案 →
- ⑧ 必要資源の確保・調達 →
- ⑨ 行動計画策定 →
- ⑩ 調整・実行 →
- ⑪ 振り返り・評価 →
- ⑫ 改善 →
- ⑬ 再実行 → ⑭ **新たな問題の発見** → 問題分析…

元気な地域、元気なまちって？

地域活性化というけれど、
地域活性化されたってどんな景色でしょうか。

地域づくりについて

- 広義な意味合いがあり、明確な定義はないため、
ここでは、

自らの力で、よりハッピーな未来に向けて、
地域活性化／課題解決に取り組んでいく活動
ととらえてみます。

元気な地域・・・

個人的な定義

①“楽しい”“嬉しい”“行きたい”“関わりたい”“応援したい”など
“・・・したい”など前向きな気持ちを起こさせる地域。

②新陳代謝が起きる地域。

既存の取り組みが広がっていく中で、新しい取り組みも生ま
れている地域。

⇒ 新しい取り組みを伝えようとすることも、また聞く側もわかろう
とする両方が必要。

地域社会をよりよくしていくための組織づくりについて



組織運営について

- ① ミッション、ビジョン、背景、価値（起こす変化）等のコンセプト設定、確認
- ② 事業開発、見直し → 事業モデル形成、事業・プログラム開発。企画書。事業点検
- ③ 上記の実現のための計画 → 中期計画、年間計画、事業計画、プログラム実施計画
- ④ 参加者、必要としている人を掘り起こす広報・PR
→ 営業資料、ホームページ、SNS、チラシ・ポスター
- ⑤ 日常活動を支えるオペレーション(運用)
→ 問い合わせ対応、受付、会計(現金出納帳)、書類・記録管理
- ⑥ 資源調達のための協力者・支援者開拓
→ ボランティアコーディネーション、クラウドファンディング、寄付キャンペーン、支援機関の活用
- ⑦ 成果報告、成果の可視化 → 報告書、成果報告会、
- ⑧ 見直し、改善、再実施

※詳細について、参考資料へ

そもそもですが、大切なこと

そもそも一人では、地域づくりはできない。

必要なのは、仲間、応援者・協力者。

「共感」されるかが肝（共感の反対は、独りよがり）

「共感」されるために、

1. 何のために、何を目指して取り組むのかが明確であること。
2. 取り組みの内容だけでなく、取り組む必要性(問題意識)を認識できること。
3. 自分にとって関係のあることだと思えること(ジブンゴト化)。
4. 言葉じゃなくて、行動を感じられること(説得力)。
5. 日頃からの周囲へ貢献や関わりを大切にしていること(感謝・信頼)
6. 自分の声を聞いてくれる、受入れてくれる(受容)。

「共感」に「参加の提案」が加わると、
共に未来をつくる仲間となり、
実践する「協働」へ

- ※ 「参加の提案」は役割の指示ではない。
意見や空白余地をつくるところに加わって欲しい提案。

事業と活動の違い

事業は、自分がしたいことを形にすることではなく、必要としている人に継続的に応え続け、自他共に成長していくための営み

活動は、1 活発に動くこと。ある動きや働きをすること。「暖かくなつて虫が一し始めた」「一範囲が広い」「火山一」、2 「活動写真」の略。

価値とは何か。

か-ち【価値】

- 1 その事物がどのくらい役に立つかの度合い。値打ち。
「読む価値のある本」「価値のある一勝」
- 2 経済学で、商品が持つ交換価値の本質とされるもの。
→ 価値学説
- 3 哲学で、あらゆる個人・社会を通じて常に承認されるべき絶対性をもった性質。真・善・美など。

「ブリタニカ国際大百科事典」より

* HAPPYな(気持ちになる)変化を起こすこと

HAPPYになるイメージ・期待感が主体的な一歩を踏み出させる⁵

本日の講義後

皆様にしていただきたいこと

事業点検

今やっている取り組みを改めて捉えなおしてみる

進め方

手元のワークシートに、個人作業で記載いただき、グループ内の他の参加者と共有。

Mission

“若者の力を活かして、
地域活性化/課題解決
を加速する”

Tochigi
Youth
Supporters
Network*

NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク



本資料データを欲しい方は、上記の
LINE公式アカウントより連絡ください。



あしかも。

あしたの一步を照らすメディア

若者×地域メディア
「あしかも。」

<https://ashikamo.media/>

栃木県宇都宮市西原1-3-4 TEL 028-612-1575 FAX 028-612-1585

E-mail ysn_office@tochigi-ysn.net

<http://www.tochigi-ysn.net>

以下、参考資料

継続する活動の続け方

継続する条件

- ① 必要性と期待があり、応え続けている
(価値を生み出し続けている)。
- ② 人・物・金・情報等の社会資源と成果のバランスが取れている。
- ③ 新たに出会う課題や環境の変化に適応していく。(①に近いですが)

※ ミッションを達成したら解散、終了もあり。

①コンセプト設計

—根底は、背景とミッション—

- どんな計画であっても、組織の存在理由である、社会的必要性(背景)と何を実現しようとしているのか(使命)がなければ、魂の入った計画にはならない。
- 魂なき計画は執行されず、計画に対する不信が生まれ、それぞれの想いだけで動き、成果がでない悪循環が生まれる。

自分たちの存在理由は何か

<背景を描く問>

1. 我々を必要としている人は、どこに、どれだけいて、何を求めているのか。
2. その必要としている人が生まれてしまう原因・社会的構造は何か。

<ミッション(使命)を描く問>

1. 我々は、必要性に応え、解決した未来の社会像をどのように描いているか。(ビジョン)
2. 我々は、何を成し遂げようとしているのか。

生み出した成果を設定する

- 汗を流した量や出会った人との数ではなく、生み出した変化が成果。
- 我々は、何をどのように変えていくのか。
- 成果を考えるにあたって、地域や未来が変わったと、関わっていない人がわかるために、どうすれば伝えればよいか。
- 関わっていない人が変化を強く感じられるには、気持ちではなく、数字である。

②事業開発

ー背景、使命、成果の設定を実現していくためにー

以下を確かめるうえで、事業モデルをつくる。

- 誰に、対して、何を提供し、ミッション実現とどうつながっているのかを整理する。
- 実施する前に、サービスの提供者、資金提供者を設定(明確な仮説)する。
- チーム内の他の取り組みとの連動、差別化を描けているか。

背景、使命、成果の設定を実現していくための事業開発

- ①目的：何を実現しようとしているのか。
- ②背景：何を問題としてとらえているのか。根拠は何か。類似の取り組み、既存の取り組み等、
- ③ゴール：どんな変化を目指すのか。
- ④概要：一言でいうと何をするのか。
- ⑤実施内容：詳細、日時、場所、
- ⑥実施までのプロセス：スケジュール、準備物、関係機関のリストアップ（アタックリスト）と協力依頼内容
- ⑦広報方法：
- ⑧問い合わせ、実施責任者：連絡先、担当者名

③計画

計画：事を行うにあたり、その方法や手順などをあらかじめ考えること。また、その案。もくろみ。プラン。(大辞林)

⇒ 修正はあれど、未来との約束。

計画には、様々な種類がある

- 中長期計画

3年～5年で、年単位でミッションに向けて組織全体で、何を実現する年にしていくか。

- 年間計画

組織全体で、1年間、何を、誰が、いつやっていくのか

- 事業計画

各事業ごとに、何を目指し、誰が、何を、どのように実施するのか。

- プログラム運営計画

その日のプログラムの運営において、何を目指し、誰が、何を、どのように、実施するのか。

⇒ それぞれに一貫性があること。

事業計画とは

- ・ 事業計画の前提に、チーム使命と背景の設定(存在理由の 設定)が必要。

<ミッション(使命)を描く問>

1. 我々は、必要性に応え、解決した未来の社会像をどのように描いているか。(ビジョン)
2. 我々は、何を成し遂げようとしているのか。

<背景を描く問>

1. 我々を必要としている人は、どこに、どれだけいて、何を求めているのか。
2. その必要としている人が生まれてしまう原因・社会的構造は何か。

- ・ それを実現するための変えなければいけないこと課題を解 消していくために継続して取り組むこと(=事業)の自分、 チームとの約束。

事業計画書(企画書)について

- ①目的と概要：何を実現しようとし、何をするのか。
- ②背景：何を問題としてとらえ、何を変えようとしているのか。
(根拠、類似の取り組み、既存の取り組み等を踏まえて)
- ③(目標)対象と成果設定：誰にどんな変化を目指すのか。どう評価するのか。(NPO等は、関係者が複雑なので、それぞれに対して)
- ④実施内容：実施方法、日時、場所、頻度、
- ⑤資金：収入と支出の仕組み、予算、資金調達方法
- ⑥役割分担：どのような役割を持った人が必要か。足りない役割・人材は何か。
- ⑦実施までのプロセス：スケジュール、準備物、関係機関のリストアップ（アタックリスト）と協力依頼内容
- ⑧広報方法：ニーズのある人をどう掘り起こすのか。
- ⑨問い合わせ、実施責任者：連絡先、担当者名

事業計画から行動計画へ

- 事業計画書から、想定しうるタスク(作業)を洗い出す。
(→ 実践者に相談すると、抜け漏れに気付ける。)
- それらを(時間軸の)順番に並びかける。
- いつまでに、誰が終わらせるかを設定する。
(ほんとはタスク一覧を見せて、メンバーの手上げ方式が主体性とチーム感が醸成されるので良い)
- できるスケジューリングを行う。
(ワクワクすると、すぐかつ同時に進められそうな錯覚に注意)
- それらを表にすると行動計画書(参考資料配布)
- 定期的に進捗を確認し、適宜修正、サポート等の対応

当日の行動予定表

- 1人1人に細かい指示を出さなくても、それを見れば行動判断ができるように。
- また関係者の確認と連絡システムを確認していくもの。

④参加を掘り起こす広報・PR

* 営業資料、ホームページ、SNS、チラシ・ポスター

- ポイントは、参加してくれたら価値や楽しさを感じてもらえるが、関わる前の人に、届け、関わりたいと思わせること。
 1. 自分が参加して、楽しいイメージや変われるイメージを持つことができる。
 2. 取り組みの意味や参加したときの役割(すべきこと)がわかる
 3. 参加するまでのプロセスや、時間、場所などの基礎情報がわかりやすい。
 4. 文字が多くななく、写真、動画等右脳に響く見せ方。
 5. 一言で何を伝えたいのかを考え、作成する。 6. 広報ツールの強み、活用ターゲット等の特徴を踏まえて、活用ツールを決める。等

⑤ 日常活動を支えるオペレーション(運用)

→ 問い合わせ対応、受付、会計(現金出納張)、書類・記録管理

• 問い合わせ対応、受付

手順を整理する。社内で共有する。受付簿に記録する。リマインドの連絡をする。

• 会計

領収書を各事業ごとに整理し、現金出納張に反映。事業終了後、決算でわかりやすい。

• 書類

事業別に保管し、再び見返すときに探しやすいように、概ね5年保存。理事会、総会の記録は永年保存。

⑥ 資源調達のための協力者・支援者開拓

→ ボランティアコーディネーション、クラウドファンディング、
寄付キャンペーン、支援機関の活用

ポイントは、「共感」を仕掛ける。

背景、目的、取り組みの一貫性がある。

支援の意味が分かる + ジブンゴトにとらえられる。

参加したくなるプログラムづくり

プログラム＝意図のある計画

参加者(住民)はどこに喜びを感じるのか

×作業をすること

○作業を通じた達成感 (達成感)

○自分が地域社会に貢献できたという実感や頼りにされること(存在意義)

○普段できないこと、非日常に触れること。(好奇心)

○同じ目的に向かう“仲間”になっていく関係性。(仲間)

⇒ それらを事前に、想像させることができるか。

自分(だからこそ)の力が発揮できると想わせることが大事。
個別の声掛けの際も同じ。

人が集まるポイント①－活動をつくるにあたって－

1. 「共感」が生まれるように。

「共感」・・・いいね、楽しそう、ほっとけない、応援したい、一緒にやりたい。

「共感」を意図的に仕掛ける → 取り組みの必要性、意味を感じとることができる。

2. 活動内容等の事実の紹介ではなく、行動・参画の提案を。

3. 自信をもって、活動内容、必要性、ワクワクポイントを伝える。

4. 当日のやることや楽しそうなイメージが伝わる。

はじめは、言葉・文字よりも写真などイメージ・印象を伝える（右脳から左脳へ）。

5. 誰に来てもらいたいのか、対象者を絞り込む。

（例えば、20代単身の男性の転勤族（全国に支社がある会社に勤め）でこっちに友人がいない人 → どのようにアパートやバーに情報を届けるか（地上戦）、SNS内のコミュニティにどう届けるか（空中戦））

6. 伝えるときに、相手と同じ声の調子に合わせる。

7. 活動をつくるプロセスこそ、巻き込むチャンス。

いっぱい相談する。するとその人が仲間になっていく。

→ コンセプト設計、プログラム設計が重要

プログラムの巻き込み力を高めるために

[プログラムを策定する場面]

企画者自身が、住民が入ることによって問題解決に繋がるイメージを持つ。

住民がプログラムに参加すること(住民自身の力を発揮できること)で、どう地域社会が良くなるかをイメージできるように。

作業内容を細かく創るのではなく、住民自身の創意工夫によって創造できる余地を残す。

問題背景、目的、活動内容、募集する住民、に一貫性があるか。物語に見えるか。

〔参加者(住民)を募集する場面〕

参加者(住民)へ、必要性や問題をわかりやすく伝えられるように専門用語をできるだけ使わない(使っても説明できる文にする)。

〔参加者(住民)との接触の場面〕

参加者との雰囲気や温度を合わせる。

⇒ 話す調子を合わせる(声の高さ、速さ、強さ)

参加者(住民)の発言の意図を常に読み取るように。

企画者側は、参加してくれた数をゴールにするのではなく、「参加」を「接点」として捉えて、次にまた関わってくれることをゴールにする。その接点をどれだけ大事に、関係構築の場に転換できるか。相手への関心、質問力・インテーク力。

〔調整の場面〕

- ・参加者募集と同時に、問題解決へのプロジェクト・プログラムの実現性を高めるべく組織・セクターを越えて地域資源を集め、共通の目的を伝える。

〔プログラム運営の場面〕

- ・常に、“主体化”させることを考える。お客さんにしない。小さなことも命令・指示ではなく、お願いして手伝ってもらい、お礼を言う。

ボランティアコーディネーションを 高める有効なプログラム



応援される一つの形「寄付」を 頂くにあたって大事なこと

- 活動の維持のために、寄付を集めがちであるが活動による効果・価値を説明できるか。
- 寄付が、維持でなく、発展・蓄積など、積み上がっていけるか。NPOは寄付を消費ではなく、投資として受け取る意識。

寄付を頂く手順ー自社で呼びかける場合ー

- ①寄付の目的・用途を明確にするために、スタッフで協議・合意を得る。
- ②寄付募集の要項・チラシ・WEBを作成する。
- ③呼びかけ・プロモーションを行う。
- ④(企業様)は振込、(個人)はクレジット決算での支援を得る。
メールで届く。
- ⑤すぐにメールでお礼と受理のご連絡をし、郵送でのお礼状・感謝状(代表が一人ひとりにサイン)、その他資料等をお送りする。
- ⑥支援成果としての機会・報告会にご招待。
- ⑦お礼と報告書を郵送(できれば手渡し)

寄付を頂く手順ー助成金等の支援申請する場合ー

- ①助成金の目的等支援要項を読み込む。
- ②要項と、自社のミッションと課題を照らし合わせ、インパクトを生み出すための活動計画書(申請書)を記載し、送付する。
- ③助成支援機関からヒアリングやプレゼンを求められる(選考)
- ④(採択)採択通知書を受け取り、活動開始。
- ⑤助成金の受理(前払いが多い)
- ⑥中間報告や変更申請、次年度の支援申請等を行いながら、支援期限末に、活動報告書と決算書の提出。

企業から寄付をもらう際の企業の不安

- 寄付先が、本当に信頼できるのか。(法令遵守、実行力があるか、取引先、支援者は大丈夫か)
 - 寄付を価値創出に活かせるのか。(経営マネジメント力はあるか)
 - 数ある社会貢献団体の中で、そこを支援する理由は何か。社内で説明と合意が取れるか。
- ⇒ 支援を受ける団体は、上記の不安を解消できる説明と資料を用意できるか。

企業が社会貢献団体を支援(寄付)するプロセス

1. 経営理念を中心に据え、体現・実現に近づくための外部団体を支援する意義と方針(社会貢献事業戦略)の社内合意を形成する。
2. 実現したい・解決したい事柄を整理し、支援(寄付)の目的を設定する。
3. 支援先の候補選考・情報収集。活動実績(活動内容、決算、ステークホルダー)のリサーチ。ネット検索、支援センターに相談
※この見極めにNPOとの連携もありうる。外部委員を交えた選考・審査の実施等。
4. 寄付のかかる書類の整備・保存(寄付目的用途等申請書/請求書、団体からの報告書)
5. 場合によっては、寄付した活動成果報告会に出席。

事業によるパートナーシップ
ー仕事として連携するー

事例) ミライ×キャンパス

コカ・コーラ・ボトラーズ・ジャパン株式会社
× NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

- イベント協賛路線から、社員の関わりなど新たな社会貢献(CSV)を模索。
- 前に進もうとする若者への支援の方向性が社内でするものの、若者との関わり・ニーズがわからず、全国の前向きな若者とかかるチームを調査。
- そのうち、栃木県庁NPO担当への電話から、当会を紹介頂く。自身が登壇する機会に参加頂き、その場でご挨拶。
- その後、打ち合わせ・提案・打ち合わせなど丁寧に繰り返し、2017年～実施。
- 成果) 2017年度212名の学生が参加。社員が関わる社会貢献プログラムの実現。

ミライ×キャンパス



「学校を飛び出してみよう！」栃木県内の高校生・大学生の未来を拓く地域の学び場です。コカ・コーライーストジャパンさまとの協働事業。

<役割分担>

コカ・コーラ・ボトラーズ・ジャパン：コンセプト背景の提供、社内資源の提供(飲料、資金)

とちぎユースサポーターズネットワーク：企画・調整・県内ネットワークの提供・運営・学生チーム育成

業務提携において重要なこと

- ① 契約書を取り交わす(必要)前に、双方に、自社の存在目的、目指していること、強み、実績を確認しあう。
- ② 取り組み課題における現状についての共通理解を図り、目指す景色・起こしたい変化(成果)、概ねの役割分担を協議・合意する。
- ③ KPI(重要業績評価指標)とスケジュールの仮説について双方で協議・合意する。
- ④ 予算感と資金調達方法の協議と合意。

⇒ NPO側に求められる力として、提案力(企画力+資料作成力+説明力+工数見込(見積))と契約書を作れる力。

⑦成果報告、成果の可視化

→ 報告書、成果報告会

- チームコンセプトで設計した成果(目標)に対して、どのくらい近づいたのか、達成できたのか。日頃の記録管理をまとめる。

成果報告の機能

- ① 支援者・協力者への説明責任を果たし、継続的支援者につなげる。
- ② 事業の質の向上に向けての改善につなげる。
- ③ ノウハウの蓄積、チームのオリジナリティの発信
- ④ 新規支援者の開拓、社会的信用の獲得。

成果指標について 1

- 成果指標は、
 - ①実施者にとって、実行が有効であったかを確認、改善、向上のため
 - ②(潜在的)支援者にとって、その事業の有効性を感じられ、共感を高めるため
 - ③顧客にとって、事業の質と実績を感じられ、実施者への信頼を高めるため
- ※関わった人しかわからないのでは、意味がない。広がらない。

成果指標 2

KPI, Output, outcome, impact

KPI: 目標達成に向けた組織のパフォーマンスの動向を把握するための重要な業績評価の指標(Key Performance Indicator)

インパクト(impact)／社会的な影響：社会や地域に対して与えたインパクトを数値化。例)犯罪の減少、水質の改善、法規制の成立など

アウトカム(outcome)／ターゲットによる反応：ターゲットからの反応を数値化。例)webアクセス数、イベント参加者数、獲得した寄付金額など。

アウトプット(output)／ターゲットに対する施策の実施評価：選定したターゲットに対して実施したことを数値化。例)チラシの配布数、イベント実施回数など。

インプット(input)／経営リソースの獲得・投入：人、モノ、金など、支援者拡大に向けて投入した経営リソースの数値化。

成果指標例

- NPO法人フローレンス(「病児保育問題」の解決事業)
「こどもレスキュー隊員数」「会員数」「稼働率」
- NPO法人カタリバ(キャリア学習プログラムの提供)
参加者人数、状態変化アンケート(事前事後でアンケート)
- NPO法人「育て上げ」ネット(若年無業者支援)
支援実績数、利用者の声、協働実績、受賞実績、講演実績、
書籍・研究実績

成果指標例 マドレボニータ

成果指標

現状	2013年度	目標	2017年度
----	--------	----	--------

		指標①		指標②		指標③	
最終 効果 指標	測定 項目	本来持つ力を発揮していて 自分の人生を生きている、 と答える方の数					
	測定 方法	独自アンケート (受講後/1年後/3年後の追跡調査)					
	数値	現状	目標	現状	目標	現状	目標
		-					
		(データなし)					
間接 効果 指標	測定 項目	産後うつ病発生率		被虐待乳幼児数		産後2年以内の離婚率	
	測定 方法	・厚労省研究データ (EPDS得点9点以上の割合) ・独自調査(未診断で自覚者数の割合)		厚労省データ (被虐待児童数0~3歳)		厚労省データ(母子世帯になった時の末子 の年齢階級別状況:0~2歳)	
	数値	現状	目標	現状	目標	現状	目標
		10.3%	9%	12,503人	8,000人	35.1%	25%
		80%	65%			(総数1525)	
直接 効果 指標	測定 項目	受講者数		認定インストラクター数		啓発リーフレット配布・DL数	
	測定 方法	インストラクターの月次集計		登録数		担当者の月次報告	
	数値	現状	目標	現状	目標	現状	目標
		6,600人	2万人	21人	30人	6万部	47万部

13

まちづくり事例

“大学生×東日本大震災”

— 「fukufuku」 を事例に —

東日本大震災の被害規模



福島県
いわき市
2012年

地震の規模はM9.0。日本周辺における観測史上最大の地震(発生当時)。震源域は広大(岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmのおよそ10万km²)。最大震度は、宮城県栗原市で震度7。宮城・福島・茨城・栃木の4県36市町村と仙台市内の1区で震度6強を観測。死者・行方不明者は1万8,432人、建築物の全壊・半壊は合わせて40万2,704戸(2018年(平成30年)9月10日時点)。震災発生直後のピーク時においては避難者は40万人以上、停電世帯は800万戸以上、断水世帯は180万戸以上等。2018年2月13日現在も避難者等の数は約7万3,000人となっており、避難が長期化。

【①問題発見(情報接触、当事者接触、疑問・関心、体験)】

始まる仮設住宅での暮らし

→住み慣れた町を離れ、知り合いもいない生活が始まる。



取り組み：ユースワークキャンプinいわき 1泊2日の現地滞在型支援プログラムを実施。隔月実施
(2012~2015年度)

⇒気を許せる友人、生きがいが無い。。

⇒大学生と被災者との継続的な交流会を実施。お茶のみしたり、木工作業したり、工作したり。

⇒仮設で暮らすおばあちゃんたちが、気分転換に編み物を編みながらおしゃべりするグループができはじめる。

【②問題認識(実態確認、問題調査)、③問題分析・要因把握】

定期的に関わる中でのおばあちゃんの声

“支援はありがたいのだけれど、
支援されてばかりで、
自分は誰かに役に立ててるのかな”

⇒おばあちゃんたちの生きがい、やりがいには、誰かに必要とされる、誰かに役に立っている実感誰かの喜びを作り出す側になることが必要ではないか。

【④理想の設定 、 ⑤課題の設定】

おばあちゃんの編み物、小物を大学生が栃木のカフェやイベントで販売。パッケージ等も大学生と制作。

⇒おばあちゃんの生きがいとお小遣い稼ぎとなり、自立していく気持ちが強くなっていく。物が流れるだけでなく、関係性を創り出す必要性。



【⑥改善案の策定、⑦提案、⑧必要資源の確保・調達、⑨計画策定、⑩調整・実行・⑪振り返り・評価】

現地の生産者(おばあちゃんや農家)に 直接、接する機会をつくる



手と手が出会う旅の実施。
生産者、生産現場を通じて、今の福島
の状況を知っていく。また商品への愛
着を高めていく。



県内で、現地の商品を使ったワーク
ショップ⇒ 認知や親しみを広げる

【⑫改善、⑬再実行】

⇒現在7年目でも活動は継続。オーダーメイドでおばあちゃんが作る手編みのマフラーや障害者施設でつくる手ぬぐいなどの製造、販売。寄付、ボランティア以外に、買って支える復興支援と人に優しい買い物を大切にして活動。



【⑭新たな問題の発見⇒・・・】



FUKU NO MI TENUGUI (フクノミ手ぬぐい)

福島県いわき市で栽培された日本最北端のオリーブで染めています。

オリーブには「実を結ぶ」「幸せを運ぶ」等の意味があり、とても縁起の良い植物とされています。

そんなオリーブで染めたこの手ぬぐい。使い込むことによる色の変化を楽しみながら、あなたの想いが実りますように。



Omamori Handkerchief(お守りハンカチ)

生活環境が悪く医学の技術が乏しかった頃、我が子の無事を祈り、母が衣類の背中に縫い目を入れ、願掛けをした刺しゅうを「背守り」といいます。

背守りの刺しゅうを、お守り代わりにいつも持ち歩けるハンカチに施しました。



YELL FUKIN (エールフキン)

日本の伝統的な刺繍「刺し子」。かつては母が継ぐ娘の幸せを願い、伝統的な祈りを込めた柄をふきんに施して持たせる風習がありました。このふきんの模様「籠目(かごめ)」は災いや心の迷いを取り除くという意味が込められています。刺し子ふきんの思いやりを、大切な人へ。「YELL FUKIN」は大切な人へエールを込めた贈り物になるように誕生しました。

【⑭新たな問題の発見⇒・・・】

作り手の方々



広野手芸有志会（福島県広野町）



・就労継続支援B型えんどう豆
（福島県南相馬市）



NPO法人いわきオリーブプロジェクト
（福島県いわき市）

【⑭新たな問題の発見⇒・・・】

取り組みの変遷

«2015年度»

- 福島の生産者に出会い、交流する「手と手が出会う旅」開催
- 子供たちが福島の手仕事商品と触れ合う「手と手をつなごう～ワークショップ・みんなつながる小物づくり～」
- 震災に関連する本を読み、みんなで語り合う「手と手でひろがる～震災読書会～」
- 相手を想い、手で生み出されたモノの良さを感じる「手と手で伝わる～残暑お見舞い書き方教室～」
- DenDenまつり、茂木マルシェ、オモイツタエル3.11等での商品販売
- いわき市で復興支援の活動を担う若者を取材したフリーペーパー「いわき物語～未来を担う若者達へ～」発行

«2014年度»

- 福島の生産者に出会い、交流する「手と手が出会う旅」開催
- 震災について書かれた本を読みながら交流する「優雅でおしゃれな震災読書会」開催
- 震災ボランティアなどを経験した若者たちのトークセッション「震災支援の深イイ話」開催
- 宇都宮清陵高校、宇都宮北高校のPTA会による学校祭での商品販売
- とちぎ県民協働フェスタやDenDenまつり、オモイツタエル3.11での商品販売 など

«2013年度»

- 小山市まちかど美術館「3.11被災地支援展」参加
- 下野市天平の丘イベントでの商品販売
- ドキュメンタリー映画「わすれないふくしま」上映会開催@2tree cafe、コミュニティカフェ カヌク
- 福島の生産者に出会い、交流する「手と手が出会う旅」開催（2回）
- 生産者や商品の取り扱い店舗を取材した冊子「ふくふくだより」発行（6回）

«2012年度»

- パルコ宇都宮店のクリスマスキャンペーンとタイアップし、イベントを開催
- ユースワークキャンプinいわき の実施

これらの活動には、住友商事様、LUSH様、JCB様のご支援を頂きました。

「協働」がうまくいくポイント

①関わる人・関わって欲しい人の“動きたい”気持ちの背景を捉える。

⇒ なぜ動きたくなったのか(動機)、動く必要性(現状認識)、何を目指すのか(理想)

※断りづらいという理由での参加はうまくいかない。

②“実行”だけでなく、実行の後に“何を残したいか”を考える。

⇒ 形にすることをゴールにせず、そのことから何を伝え、生み出そうとするのかを設定する。

③外部資源(人、モノコト、場所、仕組、ノウハウ)を巻き込む。

⇒ 動くイメージ/企画ができたなら、友人、関係機関に相談する。応援者が生まれていく。

④違いを前向きに捉える。

⇒ 違いよりを対立にするのではなく、様々な視点を取り入れることができる。その結果、リアリティのある共感が生まれていく。違いを大切なものである認識と受け止める。

⑤仲間を信じ、感謝の気持ちを。

協働が必要な社会的背景①

- 人口減少
- 超少子高齢化
- 国家財政の破綻危機

⇒歴史上、世界中、この状況になった国がない。過去の経験則が通用せず、誰もが未来に正解を持ち得ていない時代。

正解が用意されていない社会に生きる。

⇒「問題意識」を持ち、「仮説」を立て、「実践」し、有効かを確かめ「正解」を見つけていく動き方、生き方。

▶過去の知識の発揮ではなく、組み合わせ、新たな仮の解「仮説」を導く力が重要。

協働が必要な社会的背景②

物質的な豊かさにより、連帯しなくても、生きていける環境が実現。

- * (+) 個のできることが広がった社会
- * (-) 多様性と分断(専門分化)の社会。
- * (-) 共有領域(共通体験)や少なく、孤立化しやすい寂しさのある社会。

⇒ 「正解」のない社会の中で新たな「解」を作らなければならない社会に必要な「化学反応」

⇒ 「化学反応」は、熱力のある「違い」による反応が起きる可能性が高まる。

⇒ 「化学反応」は、多様な違いを受け止め、掛け算していく力。本気で違いと向かい、活かそうと思った合った熱量に比例する。(様々な学習の内、主体的学びが、物事を多角的に捉える力を養い、「違いに対して寛容かつ包摂していく力」、また「一見すると関係ないことをつなげて捉えることができる力」を養うことができる。)

協働の持つ社会的価値(機能)

- 制度外、社会的通念外の領域(新たな課題解決策)の創造

実際の課題が解決ないしは改善していく。社会的に必要な「解」を創り出される。「解」があると、いろいろな人へモデルとなり、普及する。新しい産業、社会の価値観の種となる。

- つながり、違いの融合、社会的連帯感
- 社会的当事者性(責任感のある市民意識)の向上
- 自己実現や社会貢献の意欲の高まり
- 社会を自らの力でよりよくできるという実感と希望を持った人材が育まれる。
- 社会課題背景の理解や可視化、新たな問題との出会い／地域や人の魅力に気づける視点の獲得

特に、役割、役職ではなく、
ワクワクする未来の景色でつながること

相手がその景色がイメージできることが重要

⇒①抽象的な言葉ではなく具体的な言葉で伝える。②現在の状態から理想とする状態、そこを埋めるために必要なことを伝える

景色あるけど、やり方は決めない。

“そこに行くまでの道のりをつくるのに力を貸して欲しい”。関わりための空白をつくる。